

プラム整枝せん定講習会資料

JA 中野市営農センター

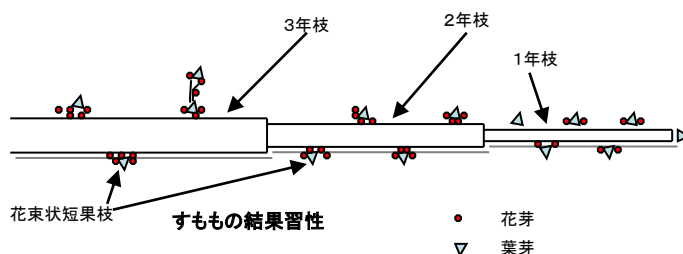
1 プラムの特性

1) 花芽の着生

プラムは前年伸びた枝の葉腋に花芽をつける。

花芽は葉芽を含まない純正花芽であるが、同一着生部に葉芽もできる副芽と花芽だけの単芽がある。

枝は先端の数芽が強く伸び、以下は短果枝や花束状短果枝となる。花束状短果枝の花芽は単芽のみであるが、頂部と基部に葉芽ができる。



2) 樹の一般的な生育特性

- ・若木の間は旺盛な品種が多く直立性が強いが、成木となると開帳しやすい。
- ・下部優勢が強い場合と頂部優勢が強い場合がある。
- ・傷口の癒合は悪く枯れこみやすい。
- ・短果枝と花束状短果枝に品質が良い果実が結実する。
- ・直立枝、下垂枝は果実に枝ずれを起こしやすい。

2 樹形

成園時の栽植密度（目安）

品種	栽植距離
大石早生・ソルダム	8 m × 8 m
紅りょうぜん	7 m × 7 m
菅野中生（静香）	7.5 m × 7.5 m
貴陽	10 m × 10 ~ 12 m
太陽	10 m × 10 m
秋姫	4 m × 4 m



2本主枝、3本主枝等がある。それぞれの長所、短所がある。（積雪量注意）

2本主枝	3本主枝	4本以上～
長所 ・成園になった時、主枝や垂主枝の方向が一定になり、整然とした骨格づくりができ、作業の省力化につながる 短所 ・成園になるまでの年数がかかる ・主幹部近くが強勢となりやすい	長所 ・成園になる年数が早い ・樹勢の調整はしやすい 短所 ・主枝、垂主枝の配置が難しい ・隣接した樹と混み合った場合のせん定が難しい	通常は枝がすぐに混み合うため多くの本数を取らないが、計画的密植園で将来間伐を行う予定の樹は、本数を多く残し、できるだけ果実を収穫する

※永久樹は2本仕立て、間伐樹は3本仕立ての組み合わせ等

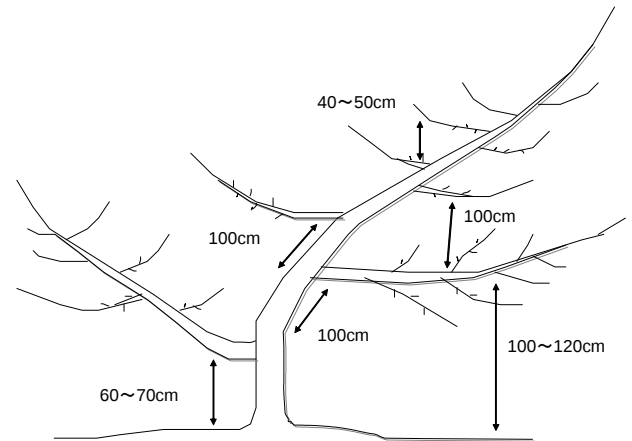
1) 2 本主枝

すももの樹形は開心自然形が一般的である。主枝の数は 2～3 本とするが、2 本主枝がバランスをとりやすい。

第一主枝は地上 60cm くらいの位置でできるだけ発出角度の広いものを利用する。

各主枝に 1～2 本の垂主枝をつけ、樹冠容積を確保する。

基部の骨格枝や側枝が太くなりやすいので、枝のバランスに注意し、負け枝を作らないようにする。



すもも開心自然形の基本樹形

垂主枝は早めに作らない。

主枝に細い側枝を沢山残すように心掛ける。

・植付け 1 年目

春植えの場合はかん水敷きわらを必ず行う。

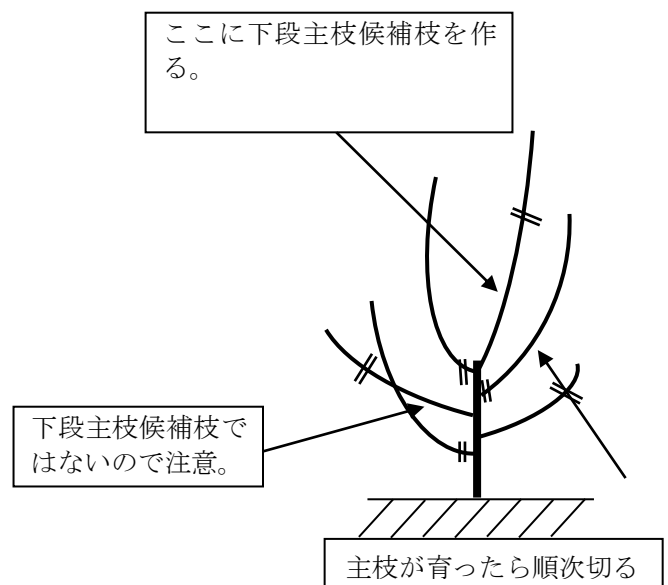
植えつけた苗木は 30～60cm の範囲で先刈りし、強い新梢を発生させる。

生育開始後、主幹延長枝は支柱に結束し、競合新梢は欠くかまたは捻枝する。

・植付け 2 年目

主枝候補枝は樹勢に応じて先刈り程度を 1/2～ 1/4 程度で加減する。

側枝候補は弱いものがあれば残して良いが、強くなりそうなものは迷わず切る。一本棒状でもよい。夏頃主枝の誘引を 60° 程度で行なう。



幼木時のせん定

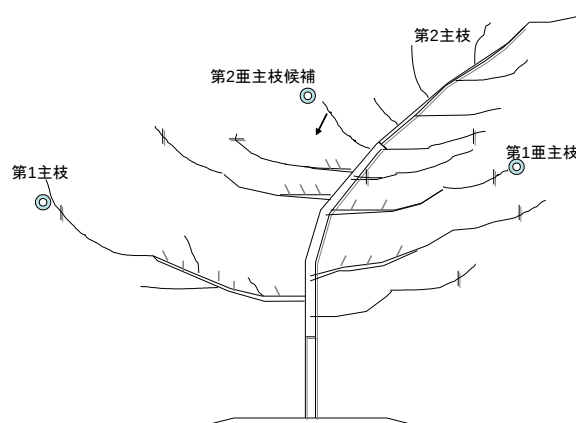
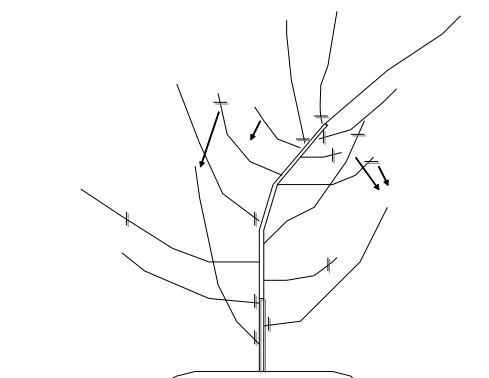
品種	枝の発生ようす	整枝せん定上の留意点
ソルダム	先端の 1～2 芽が強く伸び、ほかは花束状短果枝になる。	発育枝の先刈りが弱いと花束状短果枝が多くなり、基部に枝のない樹になりやすい。
太陽	枝の先端部から基部まで新梢が発生する。	新梢の発生は多いが花芽の着生は比較的少なめ。若木時代は樹勢が特に強くなりがちなのでせん定だけで樹勢はつくれな い。 誘引や夏季管理を加え樹形をつくる。
貴陽	枝の先端部から基部まで新梢が発生する。	若木時代は樹勢が特に強くなりがちなのでせん定だけで樹勢はつくれな い。主枝候補の誘引を行い、低樹高または棚栽培に誘導する。
大石早生	上記ソルダム・太陽の中間的なタイプ	若木時代は徒長的な伸び方をし、花芽着生もやや不良。間引きせん定を主体とし骨格枝先端を強めに先刈りする。
秋姫	先端 1～2 芽が強く伸び、他は花束状短果枝となる。基部のほうはげ上がりやすい。	若木のうちは直立性だが結実量が増すと下がりやすい。リング症が発生しやすいこと、枝中間から発育枝が出にくいことから樹冠拡大がしにくいので、主枝数は多めにおく。着果量を少なくし、健全な若木を育成する。
紅りょうぜん	大石早生とソルダムの中間	樹勢が良く、花芽着生も良い。成木に成るにつれて、樹勢が弱りやすい。樹勢に応じて先刈りの程度を変える。
菅野中生	〃	着果すると下垂し、樹勢は落ち着くので、中庸な先刈り

- ・植付け 3 年目
主枝候補枝は 1/2 程度に強く先刈りする。主枝候補枝に勝つ枝を間引く。
主枝及び主枝候補枝を誘引する。(積雪量注意)
側枝候補は誘引を行い落ち着いた結果枝とする。

- ・植付け 4 年目
結実量が増える。
この年には第一主枝候補を確定し、強めに先刈りする。
主枝延長枝は強めに先刈りする。側枝や新梢を間引きせん定する。
45~50° 程度の規定角度に主枝を誘引する。

- ・植付け 5 年目
主枝分岐部から 1m 強離れた位置に垂主枝を選定する。骨格枝は下垂しないよう強めに先刈りする。
日当りを妨げる不要な側枝を間引く。引き続き必要に応じ誘引を行なう。

- ・成木
主枝、垂主枝の先端は強めに維持し、負けないように努める。
側枝が大きくなると主枝や垂主枝を負かすことがあるので側枝の更新を行なうなどバランスに注意し、常にコンパクトに保つ。
光が入らないと結果枝が枯れ上がるので日照導入に留意し側枝を間引く。
弱めの品種は切り戻しも行い、樹勢、樹形維持に努める。強めの品種は誘引なども行い適正なせん定量とし、強い側枝や新梢は省き、落ち着いた結果枝を多く残すことに務める。



成木における側枝のせん定方法

品種	結実の主体の枝	側枝のせん定
ソルダム	花束状短果枝	側枝先端を先刈りしないと先端 1~2 本を除き花束状短果枝となり、下垂、はげ上がりを起こしやすい。 先端新梢は 1/2 先刈りを加え競合枝を間引く。その他は 1/4~1/3 の先刈り。
太陽	短果枝	側枝先端を強く切り戻すと短果枝の着生が少ないなど結実不安定。先端の競合枝や強い枝を間引く。1/6~1/4 の先刈り。 その他の中・短果枝の先はすべて軽く先刈りする。 弱めの落ち着いた結果枝群を多くおく。 樹勢が落ち着いたら切り戻しを加え、樹勢維持を図る。
貴陽	短果枝	側枝先端を強く切り戻すと短果枝の着生が少ないなど結実不安定。切り戻しはできるだけ避ける。先端の競合枝や強い枝を間引く。1/6~1/5 の先刈り。 強い側枝は勝ちやすい。優先的に除くとともに主幹部に近い側枝の太りに注意する。 その他の中・短果枝の先はすべて軽く先刈りする。 弱めの落ち着いた結果枝群を多くおく。
大石早生	短果枝 花束状短果枝	側枝先端を切り返さないとほとんどが花束状短果枝となる。側枝先端は、1/3 程度切り落とす先刈りを加え、競合枝を間引く。1/5~1/3 の先刈り。 その他の中・短果枝の先はすべて軽く先刈りする。
秋姫	短果枝	4~5 本の主枝を育成し、垂れ下がらない短めの側枝を配置する。 先端新梢は 1/2~1/3 を切除する先刈り。内芽でとめ強くふかせる。競合新梢は 4~5 芽を先端外芽で切り、短果枝を育成する。 弱い新梢を除いてすべての新梢に 1/2 程度の先刈りを入れる。 はげ上がりつつある弱い主枝は更新する。
紅りょうぜん 菅野中生	短果枝 花束状短果枝	着果すると下垂し、樹勢が弱るので注意。 中庸

2) 3 本主枝（間伐樹、早期結実樹、積雪地帯に利用）

植え付け管理は同じ。

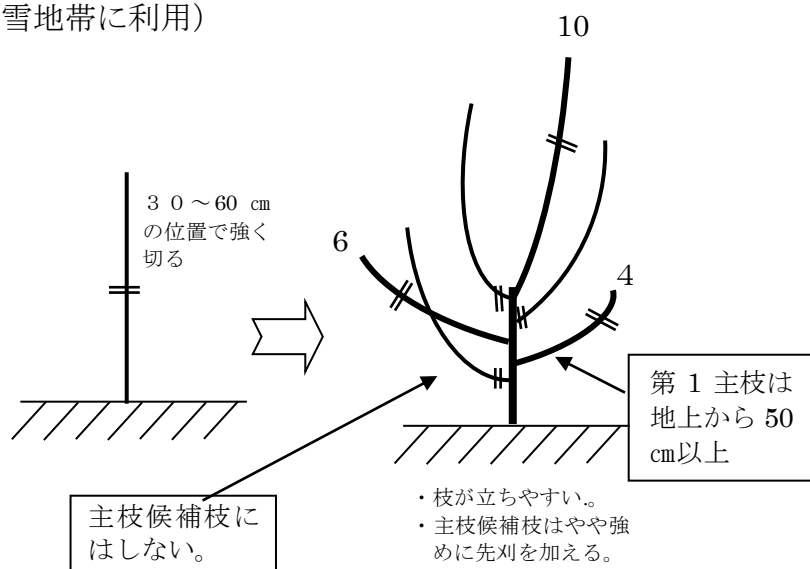
主枝を誘引すると、新梢が発生するのでそこから他の 2 本の主枝を育成する。

最上段の主枝と同年枝では主枝を作らない。

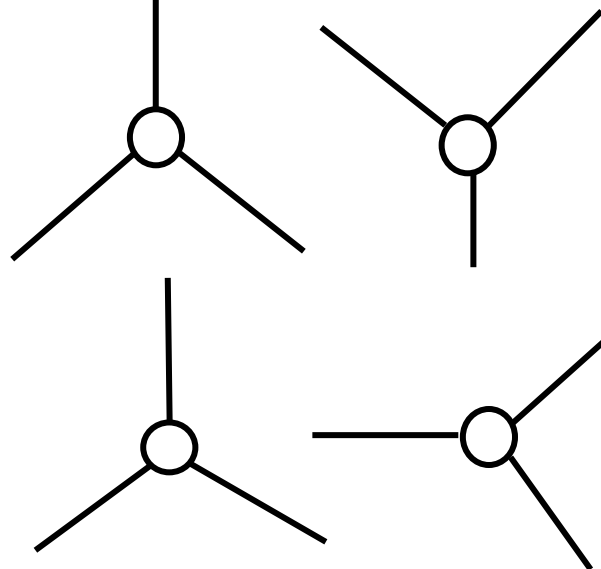
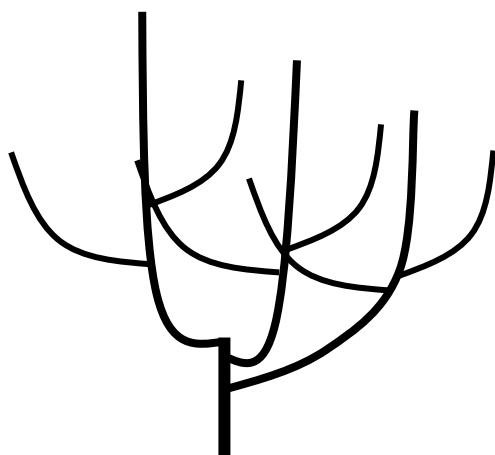
やや高めの位置から中段、下段主枝をつくり、広い角度で誘引する。主枝候補は上から 10 : 6 : 4 程度の強さの枝を残す。

亜主枝は極力つくらず、側枝で主枝を構成していく。

成園になると間伐が遅れるので注意。



3 本主枝の注意点



- ① 3 本主枝は主枝の発生角度が急だと、亜主枝、側枝の配枝が難しくなる。主枝は誘引して角度を広くとる。
- ② 空いている空間に主枝が入るため、間伐後の空間を埋めにくい。（間伐遅れやすい）

側枝の更新

- ：先刈りの実施により、先端の新梢を伸長させる。
- ・先端が伸びなければ樹幹拡大は難しい。
 - ・先端が伸びなければ樹の元に徒長枝が発生しやすい。
 - ・養分が先端まで流れなければ、果実品質が不安定。
 - ・良品質な果実は新しい花芽で結実する。（3~4 年枝）
 - ・直上短果枝の養成は、花芽確保及び日焼け防止として考える。

留意点

- ・主枝に対しては、車枝・鋏枝の注意。
- ・側枝に対しては、切り返し・間引き・先刈りの繰り返し。
- ・切り戻しは、切り下げ・切り上げの判断。
- ・太枝は、小枝を残しながら追い出し後、1, 2 年目、収穫後早めに整理
- ・切り口は、平・斜め切りで行う。

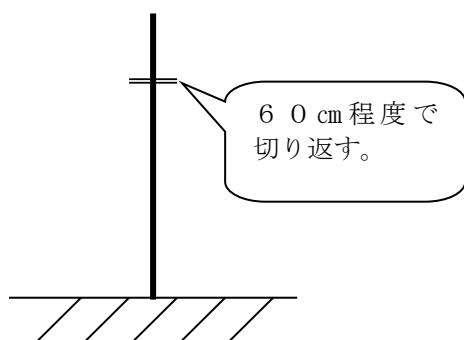
3) 秋姫の整枝・剪定

主枝からリング状のこぶが発生し、先端から衰弱し、収量が低下するため更新枝が必要となる。
したがって、通常のせん定とは異なる。

リング状のこぶ



①定植

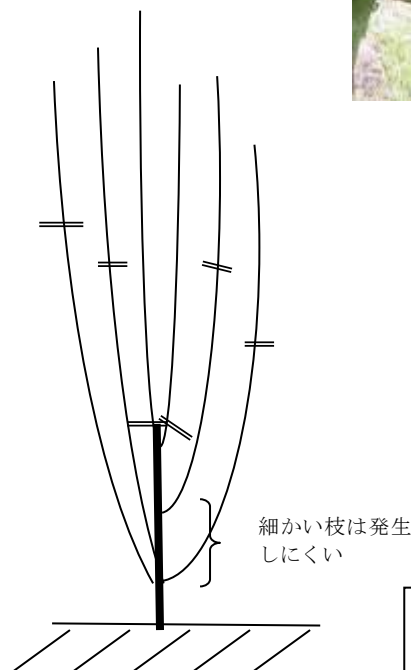


②主枝候補枝の育成

地上高 40~60 cm から
7~8 本の主枝を育成

せん定では 4~5 本
に整理し、強めに切り返す。

先端から発生した新梢は切除し
できるだけ開いた新梢
を利用する。



主枝の勢力が揃っていない悪い例（主幹延長枝から主枝をつくってしまった場合）。

③主枝候補枝の整理

先刈りした部分から、新梢が発生するので、
内側の新梢から整理し、それぞれの主枝の樹勢を揃える。

主枝候補枝などの骨格枝は必ず $1/3 \sim 1/2$ 程度の強い切り返しを上芽で行い、強く維持する
主枝の更新枝はできるだけ主幹から育成する。

主枝先端の新梢長が伸びなくなってから、主枝候補枝の更新枝を育成する。主枝が伸長している時は更新枝の育成を
考えない。

更新枝は中庸な新梢を利用する。

